



受付日：令和3年11月12日
受付番号：HP21-KT118

接合部性能試験成績証

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

東京都港区海岸1-1-17
ニューピア竹芝ノースタワー17階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 坂横 義夫



令和4年8月23日

1. 接合金物名称	FHD-50
2. 試験依頼者	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9 株式会社 ダイドーハント 〒542-0063 大阪府吹田市江坂町1-12-38江坂ソリトンビル1F
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(せん断)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部(アンカー型)のせん断試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(令和2年9月11日制定)」による。 「スリット横方向」及び「スリット縦方向」の2種類のせん断加力方向の単調試験結果より、最大耐力、及び降伏耐力の小さい「スリット横方向」で本試験(繰返し載荷6体)を行い短期基準接合耐力を評価した。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「FHD-50」1個×2箇所 材質：SPHC(JIS G 3131^{*1}) 寸法：105mm×105mm×235mm(外形) 板厚t=6mm ドリフトピン用孔 5-φ13mm ボルト用孔 1-φ36mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2,*3})</p> <p>2) 接合具</p> <p>「FPN-105」5本×2箇所 材質：SWRM8相当材として以下に掲げる鋼線^{*4} SWRM8(JIS G 3505^{*5}) SWRM10(JIS G 3505^{*5}) Q195 (GB/T701-2008^{*6}) 寸法：φ12mm L=103mm 先端7mm絞りφ9mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2})</p> <p>「丸座金t12.0×φ86」1個×2箇所 材質：SS400(JIS G 3101^{*7}) 寸法：φ86mm 長孔加工孔1-φ16mm 板厚t=12mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2})</p> <p>「丸座金t6.0×φ50」1個×2箇所 材質：SPHC(JIS G 3131^{*1}) 寸法：φ50mm 加工孔1-φ16mm 板厚t=6mm 表面処理：Ep-Fe/Zn 8/CM2(JIS H 8610^{*2})</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>柱：105mm×105mm×890mm スギ 無等級材 含水率：13.0～17.0% 全乾密度：0.35～0.36g/cm³</p> <p><small>*1 JIS G 3131 熱間圧延軟鋼板及び鋼帯 *2 JIS H 8610 電気亜鉛めっき *3 試験では生地を使用した *4 試験ではQ195を使用した *5 JIS G 3505 軟鋼線材 *6 中国国家标准規格(GB規格) *7 JIS G 3101 一般構造用圧延鋼材</small></p>
6. 試験条件	試験体は接合部を実状に合わせた仕様とした。 試験体の固定は試験体の中心軸から10mm偏心した位置とし、M16全ねじボルト、ナット2個(ダブルナット)及び「丸座金t12.0×φ86」、「丸座金t6.0×φ50」を用いて、基礎を想定した鉄骨治具にトルク管理値20N・mで締め付けた。(試験結果は接合部1箇所あたりの数値を示す。)
7. 試験結果	短期基準接合耐力 8.8 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	株式会社栗山百造:新潟県三条市井戸場84-9
9. 試験実施日	令和4年1月13日
10. 試験担当者 及び報告書作成者	試験担当者:株式会社栗山百造 製造部 高浪 雄一 報告書作成者:ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 阪口 明弘 千葉 博 葛生 夏実

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。